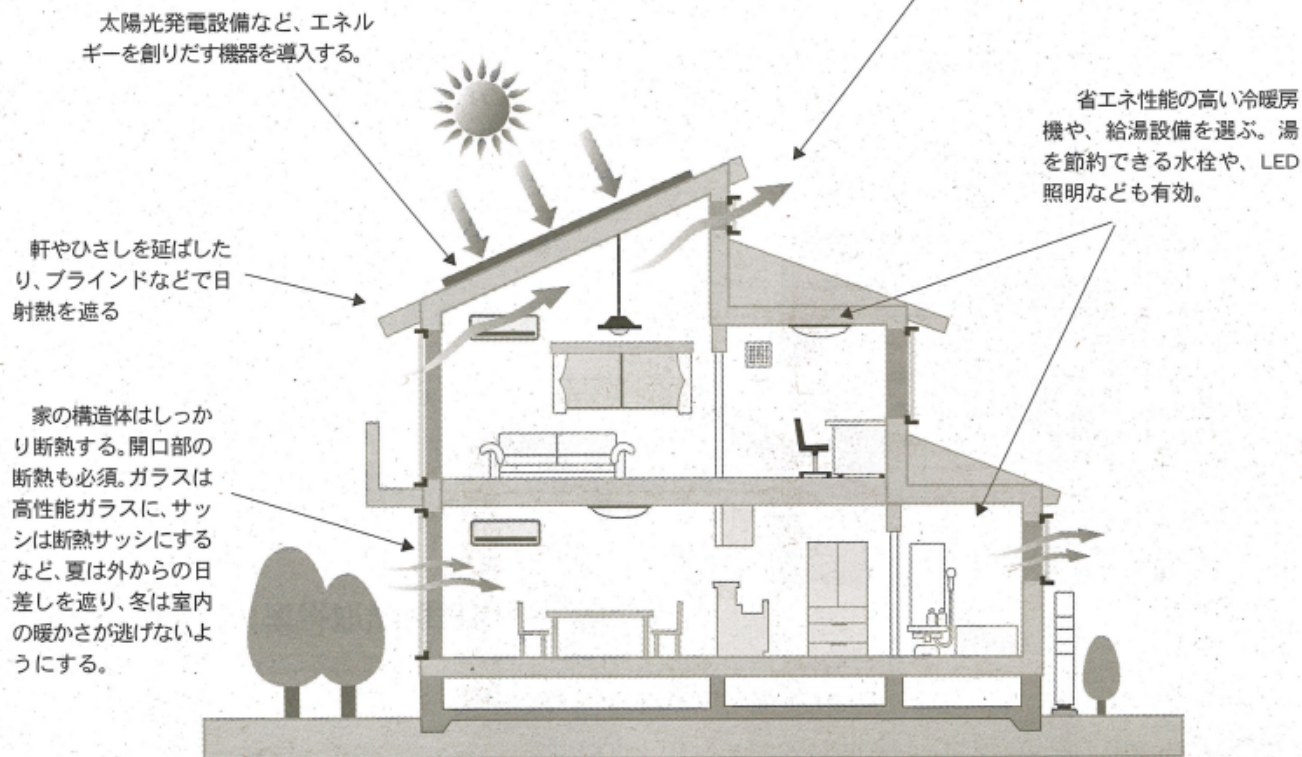


02 基準を満たす家とは

気密性が高い空間には、換気設備は欠かせない。室内にクリーンな空気を取り入れ、汚れた空気を外に出す効率的な換気設備を導入する。



建築によるアプローチ＋ 設備によるアプローチが必要

建築によるアプローチでしっかり断熱し、日射熱を遮る空間を造ってこそ、設備の効率も上がる。基準を満たすには両方のアプローチが必須。

◆建築と設備「両方向から

二つの基準をクリアするには、建築によるアプローチと設備によるアプローチが必要になる。

建築の際に重要なのが「断熱と日射遮蔽」だ。夏場であれば外からの熱を遮り、冷房の効率を高める空間にすることが求められる。具体例を挙げると、屋根から壁、床まですっぽり断熱材でくるむ、ひさしや軒を設ける、日射熱が入りにくい高性能ガラスや断熱サッシを採用する、などだ。

設備によるアプローチでは「高効率化と創エネ」が有効だ。例えば、省エネ性能の高い設備機器を選ぶ、太陽光発電を取り入れるなどが挙げられる。

基準をクリアするには、従来より建築コストや設備の導入コストが掛かるが、クリアしなければ建てられない恐れがある。

だが、本土とは大きく気候風土の異なる沖縄。独自の問題もある。

県の土木建築部建築指導課の金城新吾班長は「沖縄は亜熱帯海洋性気候で通風により快適性を求めてきたことや、鉄筋コンクリート造が主となっているなどの特殊性があり現行の省エネ基準をそのまま沖縄の住宅に適用させるのは難しい」と語る。